

## 今週の株式相場見通し

\* 日経平均 21,900~22,800円 TOPIX 1,510~1,580

\* 期待材料 各国の政策協調 新型コロナ収束と経済のV字回復 5G化の進展

\* 不安材料 米中対立 信用リスク 新型コロナの拡大 内閣支持率低下 食糧問題 地政学的リスク

今週、発表が相次ぐ米大手金融機関の決算については、新型コロナの影響を受けて厳しいものになるとの事前観測が広がっている。また、17日からの欧州首脳会議では、欧州復興基金の創設について議論される予定だが、オランダ、スウェーデン、オーストリア、デンマークの「儉約4カ国」は依然として補助金形式による基金の創設には強く反対しており、合意が出来るか流動的な状況となっている。これら懸念材料に加えて、急な株価上昇への警戒感、新型コロナの世界的な感染拡大への懸念も相まって、今週の株式市場は様子見気分の強い展開になるものと思われる。ところで、日米ともに、バリュー株よりグロース株選好の動きが顕著だ。新型コロナ問題がクローズアップされる以前の19年末の株価と7月8日の株価比較では、S&P500-1.9%に対して、S&P500グロース指数+11.2%、同バリュー指数-16.7%、TOPIX-9.5%に対して、TOPIXグロース指数-0.9%、同バリュー指数-18.7%となっている。S&Pグロース指数をバリュー指数で割った倍率は、昨年は1.5倍程度の推移であったが、足元では2倍を超える水準まで急ピッチで拡大している。理由としては、各国中銀が資金供給を潤沢に行ったことによる投資家のリスク許容度の拡大や世界経済のV字回復への期待が低下するなか、バリュー株に景気敏感株が多く含まれるのに対して、グロース株には5G、IoT、AIの本格化などの構造的な社会変化を成長要因とするハイテク株が多く含まれること等があるものと思われる。中長期的な観点では、実力以上に売り込まれた後も戻りの鈍いバリュー株に妙味があるが、当面はグロース株選好を支える背景には大きな変化がなく、短中期的な観点ではグロース株優位の展開が継続するものと想定している。(7月9日現在、多功 毅)

## 今週の予定

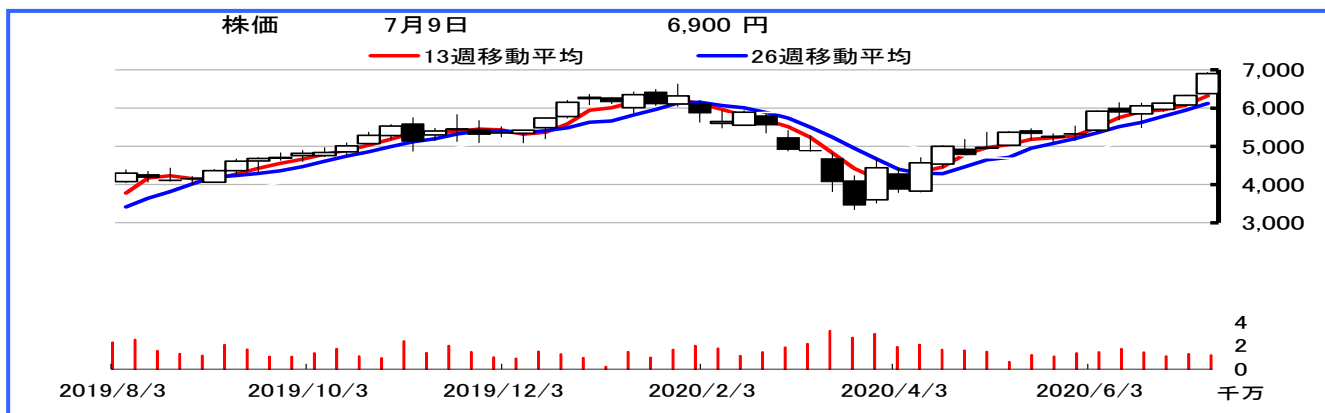
	国内	海外
7/13 (月)	ソニー(6758)ソニーFHへのTOB期限 東洋電機製造(6505)本決算	[米]ペプシコ(PEP)2Q決算 [ベルギー]EU外相理事会
14(火)	日銀金融政策決定会合(~15日) ハブ(3030)1Q決算 サイゼリヤ(7581)3Q決算	[中]6月貿易収支 [独]7月ZEW景気期待指数(18:00) [米]JPモルガン・チェース2Q決算
15(水)	6月の訪日外国人数 日産(7201)新型EVアリアを発表 芥川賞・直木賞発表	[米]6月鉱工業生産(22:15) [米]ゴールドマン・サックスGP2Q決算 [加]中央銀行政策金利(23:00)
16(木)	日産(7201)インド向け新型SUVを発表 経団連夏季フォーラム 中西経団連会長会見 日本板硝子(5202)株主総会	[中]6月鉱工業生産、小売売上高(11:00) [欧]ECB理事会 [米]6月小売売上高(21:30) [米]モルガン・スタンレー2Q決算
17(金)	パソナGP(2168)本決算 三村日商会頭会見	[欧]EU首脳会議(~18日) [米]6月住宅着工件数(21:30)
18(土)	サッカーなでしこリーグ開幕	G20財務相・中央銀行総裁会議
19(日)	大相撲7月場所(~8月2日)	[ハンガリー]自動車F1第3戦決勝

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 今週の参考銘柄

### アドバンテスト (6857) 東証1部



	19年3月期 (百万円) 前年比		20年3月期 (百万円) 前年比		21年3月期(予) (百万円) 前年比		株価(7/9)	6,900 円
売上高	282,456	36.3%	275,894	-2.3%	—	—	業種	電気機器
営業利益	64,662	164.1%	58,708	-9.2%	—	—	売買単位	100 株
税前利益	66,211	172.7%	58,574	-11.5%	—	—	PER(予想)	— 倍
当期純利益	56,993	214.8%	53,532	-6.1%	—	—	PBR(実績)	5.9 倍
EPS(円)	302.4		270.1		—	—	ROE(実績)	24.9 %
配当金(円)	92.0		82.0		—	—	配当利回り(予想)	— %
							担当	松本 直志

\* 21年3月期予想は非開示 出所：業績に関する数値は決算短信、決算説明資料より

1972年に半導体テスタ(半導体に高精度の電気信号を流し、品質・性能・信頼性を評価する装置)市場へ参入。19年の世界シェアはSoC(スマートフォン・PC向けプロセッサや通信用など各種集積回路、イメージセンサなどメモリ以外の半導体)テスタ、メモリテスタともに55%。19年3月期のセグメント別売上構成比は、SoCテスタが56.2%、メモリテスタ15.3%、メカトロニクス関連13.2%、サービス他15.4%。

前期決算は前年同期比2.3%減収、9.2%営業減益、受注は4.6%増、受注残は21.6%増。半導体の高性能化や信頼性保証強化ニーズの増加に伴い、5GやハイパフォーマンスコンピューティングなどハイエンドSoC、SSD向けテスタの需要が旺盛。加えて、20年1月末に米Essai社(デバイスとテスタをつなぐソケット、テスト中の温度を制御するサーマルコントロールユニットなどを手掛ける)を買収したこともあり、システムレベルテスト(システムやモジュール上で半導体が正しく動作するか検証するテスト)が伸びたことなどが貢献し、2年連続で過去最高の受注高を更新。

新型コロナの影響で、今期の通期計画は非開示だが、5Gやデータセンタ向けテスタの需要は底堅く推移することが見込まれる。また、微細化や積層化など半導体の高性能化に伴い、従来は補完的な位置づけだったシステムレベルテストの需要が増加していることも追い風。米Essai社の買収や自社での技術蓄積により、効率的に電源を供給する技術、テストの際に温度を制御する技術、高速デバイス搬送システムなど、効率的なテストを実施するために必要な技術を保有しており、不良品が許されないメモリ&ストレージ、通信モジュール、車載、クラウド、AIなどにおけるシステムレベルテスト事業の拡大も期待される。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 決算発表より

銘柄 (コード) 市場 株価(7/9)	コメント
<b>銚子丸</b> (3075) 東証 JASDAQ 1,054 円	3Q まではセット商品の見直しなどが貢献した既存店売上高の拡大により、コスト増加を吸収し増収増益であったが、新型コロナの感染が拡大した 4Q については外食自粛の流れの中で需要が急減し営業赤字に転落しており、通期では 6.4%減収、92.4%営業減益での着地。今期については、今後の見通しが困難なため業績予想は非開示としている。今後は、ウィズコロナ時代を見据えてテイクアウトメニューの拡充、デリバリーサービスの強化などに取り組む計画。(多功 毅)
<b>ツルハ HD</b> (3391) 東証 1 部 14,730 円	前期は消費税増税前の駆け込み需要が想定以上に発生。新型コロナの感染拡大以降はインバウンド売上高が激減したが、マスク、消毒関連商材や食品のまとめ買いなどの需要増加の方が大きく発生。期末にパート、アルバイトを含む全従業員を対象とした特別感謝金 30 億円を計上したものの、増収および粗利益率向上による効果が大きく、計画比上振れ着地となる前年比 7.5%増収、7.6%営業増益で着地。今期は、新型コロナ関連の需要増加を見込まず、インバウンド売上高はゼロと想定したうえで、2.3%増収、0.4%営業増益を計画。(多功 毅)
<b>システム ディ</b> (3804) 東証 JASDAQ 1,489 円	20 年 10 月期上期決算は前年同期比 21.1%増収、60.7%営業増益。下期に予定していた複数案件が、前倒しで納入できたことや大学向けシステム、スポーツ・健康関連施設向け会員・会費管理システムなどが伸び、会社計画を上回って好調に推移。ソフトウェアの品質向上と充実のサポートを強みに、新規ユーザーへのシステム導入が着実に増加。導入費用が安いクラウドサービスでは、小口ユーザーの取り込みが進み、高収益なストック収入も拡大している。(松本 直志)
<b>gumi</b> (3903) 東証 1 部 987 円	20 年 4 月期決算は前年同期比 6.7%減収も、営業利益は黒字転換し過去最高益を更新。19 年 11 月に配信を開始した新作ゲームの「FFBE 幻影戦争」が、国内外で大ヒットしたことや広告宣伝費の適正化などが貢献。今期計画は非開示だが、「FFBE 幻影戦争」の通年寄与や主力タイトルの安定運用、有名キャラクターを活用したゲームなど 2~3 本の新作投入により、前期を大きく上回る過去最高益の更新を目指す方針。(松本 直志)
<b>マルマエ</b> (6264) 東証 1 部 1,185 円	20 年 8 月期 3Q 累計決算は前年同期比 7.9%増収、75.8%営業増益、受注は 22.8%増、受注残は 20.8%増。半導体分野は前年同期比 2.2%減収も、1Q を底に回復傾向にあり、受注は 13.1%増。ロジック向け投資は一服したが、メモリ向け投資が本格化し始めたことや PC、サーバーの需要増がけん引。FPD 分野は同業者が撤退したことでシェアが拡大し、前年同期比 72.7%増収。今期の設備投資額は 4.4 億円と、前年度の 15.3 億円から大きく減る予定。生産余力を生かして新規顧客の開拓を進める方針。(松本 直志)
<b>しまむら</b> (8227) 東証 1 部 7,250 円	新型コロナの感染拡大以降、パースデイ業態は衛生用品、玩具が貢献し堅調に推移したが、外出自粛に加えて、臨時休業および時短営業の影響も生じた、しまむら、アベイル業態の落ち込みが大きく、1Q は前年同期比 19.9%減収、1,281 百万円の営業赤字で着地。2Q から店舗運営や商品調達が正常化することを前提に、通期では 0.5%減収、1.8%営業増益を計画。なお、6 月既存店売上高は 27.0%増で、計画に対しては上振れの実績であったとしている。(多功 毅)

## いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

### ■ ■ ■ 山和証券店舗網 ■ ■ ■

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



### ○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号  
加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大1.1990% (ただし約定代金230,000円以下の場合は最大2,750円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

### ○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室